

ウィップス大統領との会談—議事録 (2022年5月26日)

大統領: 前回のヨットのパラオ税関への滞納費用は、大統領として免除できる罰金や利子(Fee)などは免除したが、法律で免除できない税金(vessel tax)は無理だった。国会で法律を改正するしかない。

新田氏: 2024年に企画するヨットレースは2レースからなり、横浜—パラオのコースの後、パラオで”マリンウィーク“としてマリンフェスティバルを開催し、そしてパラオ—沖縄のコースもあり、ハワイ、シンガポール、オーストラリア、台湾のヨットなどの各国の多くのヨットも参加の期待をしている。このイベントに参加する外国人ヨットオーナーは Water Vessel Tax を問題視してしまう。

大統領: イベントまでに、そちらの提案事項を聞いてパラオの国会に法律を改正してもらうように働きかけることが一番のプロセスだ。議員は新しい法律を決める際、知識が少ないまま法律を制定してしまうことがある。どういう事項の変更が必要か、例えばヨットレースの場合は免除にするなど、そちらから是非提案してほしい。

新田氏: 前回のレースで、高さの高いミライエという船が10名のパラオ人の児童をマイクロプラスチックを集めたように、2024年のレースでもマイクロプラスチックを横浜からパラオ間とパラオから沖縄間の航海にパラオの児童を同乗させ、航路で4時間ごとの海水サンプルから見つかったマイクロプラスチックの量の結果をマリンウィークで発表してもらいたい。参加する我々のヨットやサンプリングの船は風力によって航海し、燃料は使用しないため環境にやさしい。パラオとパラオの児童のために考えられる問題点や提案をお願いしたい。マリンフェスティバルで企画したいアクティビティは、ヨットやデインギーだけでなく、カイトボードや SUP など他のマリンアクティビティも紹介し推進したい。

菊池氏: ダンスや音楽もある、国の一イベントにしたいですね。

新田氏:明日、日本大使館に訪問し、帰国後にも日本政府に呼びかけるなどと日本政府の協力はもちろんのことですが、パラオの人たちの理解とパラオ政府の協力を是非お願いしたい。

大統領:イベントには何が必要か、場所など企画し始めなくてはいけない。セイリングの専門家を交えて、特別委員会を発足するのが良いだろう。

新田氏:マリンウィークは(日パ国交30周年記念の)2024年の3月から4月初めの二週間で予定されている。3月10日に出港しパラオに到着後4月8日あたりまで滞在する。二週間の間、日本だけでなくハワイや台湾など様々なセイリングボートを招待しマリンウィークに参加してもらおう。パラオから出港するレースは初めてのことで、新しいチャレンジである。

大統領:前回のレースはパラオに委員会が発足されたのだろうか？

新田氏:ありませんでした。ですから是非とも Palau Sailing Federation を発足していただきたい。

大統領:藤木さんがディンギーをパラオに寄付されたのですよね？私の息子が9歳の時にそのディンギーをトライし楽しみ新しく学んだのでしっかりと覚えています。

新田氏:コロナ禍の前に行われていた小さいOPディンギーのクラスをどう再開するし継続していけば良いのでしょうか？

大統領:前回は Joe Chilton と若いツアーガイドの二人が関わっていた記憶があります。PCC のセサリオ氏と連絡をとって確認するのが良い。

新田氏:明日 PCC の学長のトレイ氏と会いディンギーのクラスを継続するためのアドバイスをお願いしてくる予定です。そして Palau Sailing Federation の設立も必要です。

大統領:これまではセイリングのクラスはコロールだけで行われていましたね？でも各州に回ってセイラーのいる州でクラスを開催し多くのパラオ人に体験させることが大切だと思います。そして学校の体育のクラスのアクティビティにも入れるといいでしょう。教育省の大臣に話しておきます。新たにパラオ公立学校のスケジュールが変わったので、いい案だと思います。ディンギーの移動が困難であれば、コンテナにディンギーを入れて

コンテナごと移動させ、ガロング州の Ebil やアルモノグイ州の LEEP などのサマーキャンプの一環にしたらいいでしょう。ただ、何よりコーチの確保が大切ですね。

新田氏: そうです。2020 年 3 月のコロナ以降コーチを日本からパラオに派遣できていません。パラオにいる人でコーチできる人を探すのが一番良いと思います。

大統領: パラオにはセイラーはほとんどいないですね。スピードボートは人気あるけどね。アメリカ人だけどパラオ人と結婚して水泳選手の息子を持つパラオに在住のセイラーで Dermot Keane という Sam's Tour のマネージャーがいる。彼は大西洋を公開した経験があるし、相談してみるのも良いだろう。

新田氏: 次の 2024 年のパリ・オリンピック、2028 年のロス・オリンピックまでは数年しかありませんが、10 年後の 2032 年の豪州ブリスベン・オリンピックにはパラオの選手を派遣できるようにこれからトレーニングを始めるのを目標にしてはいかがでしょうか。

菊池氏: これまで日本からパラオの児童用に寄付したのは小さい OP デインギーでオリンピック仕様のものではないのでレベルアップしてレイザーの訓練も良いでしょう。

新田氏: OP デインギーは 7~14 歳向け、レイザーは 18 歳までが適当とされます。オリンピックの試合は風の強い場所で行われるので、ヨットを安定させるのに体重が重要となり、パラオ人に適しているし、10 年の訓練を積むと 2032 年のブリスベン・オリンピックには期待できると思います。

Japan Palau Youth Sailing Club の会長は藤木氏ですが、オリンピックに出場するにはパラオ側で Palau Sailing Federation を発足させる必要があります。

大統領: PNOC (パラオオリンピック協会) のバクライ女史に相談したり、セリングに興味のあるパラオの人を集めないといけない。PCC はセリングのプログラムがあったので、参加した人のリストを入手してリクルートする

といい。前大統領も、他にも数人パラオ人もセイリングしたことがあるし、見つかると思う。

新田氏:大統領、もしオリンピック用に必要であれば私たちがセイリングヨットを寄贈できます。

大統領:ノルウェーのトールシップが近いうちにパラオに入ってきます。それには関係はありますか？それにもパラオ人のセイラー代表を派遣する予定です。Sailing Association に会って、若いセイラー男子を抜出してトレーニングしなくてははいけないですね？

新田氏:8 月末か 9 月に横浜に到着予定だと思います。藤木さんをご存知だと思います。

大統領:藤木さんにパラオのことをいつも思ってくれて、大変感謝しています、くれぐれもよろしくお伝えください。以前の様にパラオにもっと帰ってきてくださいとも！日本でお会いできることを楽しみにしています。

シード越子訳